

インターハイなぎなた競技



～ 個人で濱崎さん（3年）が3位、団体で3年連続の5位入賞！～

8月5日（土）から7日（月）にかけて、北海道千歳市（開基記念総合武道館）でインターハイなぎなた競技が開催され、本校なぎなた部が長崎県代表として出場しました。

全国の並みいる強豪との激闘の末、個人戦では濱崎明里さん（3年 御厨中学校出身）が3位、松口莉菜さん（3年 調川中学校出身）がベスト16に入り、団体戦では3年連続の5位入賞を果たしました（詳しい試合結果は下記の通り）。個人戦入賞の濱崎さんは「（個人戦では）団体戦とは違った試合の入り方をして、“一本を取ろう”という意識で攻め続け、いつもより楽しく試合ができた上で3位という結果を出すことができ、とてもよかったです」と語りました。

【インターハイなぎなた競技 試合結果】

〔団体戦〕 予選リーグ vs 甲府昭和高校（山梨） 1-0 ○ ※決勝トーナメント進出
決勝トーナメント1回戦 vs 南砺福野高校（富山） 3-0 ○
2回戦 vs 南陽高校（京都） 1-2 ● ※5位入賞

〔個人戦〕 濱崎 明里

予選リーグ vs 鳥取西高校（鳥取） 1-0 ○ ※決勝トーナメント進出
決勝トーナメント1回戦 vs 出雲北陵高校（島根） 1-0 ○
2回戦 vs 大分西高校（大分） 1-0 ○
3回戦 vs 清教学園高校（大阪） 判定 ○
準決勝 vs 南陽高校（京都） 0-1 ● ※3位入賞

松口 莉菜

予選リーグ vs 札幌国際情報高校（北海道） 1-0 ○ ※決勝トーナメント進出
決勝トーナメント1回戦 vs 奈良大学附属高校（奈良） 1-0 ○
2回戦 vs 会津学鳳高校（福島） 1-2 ● ※ベスト16

〔演技競技〕 松口 莉菜・富野 菜々美（3年 志佐中学校出身）

予選リーグ vs 北条高校（愛媛） 0-5 ●
vs 近大新宮高校（和歌山） 1-4 ●

全九州高等学校ビジネス計算競技大会

～ 濱田詩月さん（3年）、優秀賞を受賞！～

7月22日（土）、熊本市で開催された第75回全九州高等学校ビジネス計算競技大会に本校商業クラブの濱田詩月さん（3年 志佐中学校出身）と柿山慶樹さん（3年 今福中学校出身）が出場し、電卓競技の部個人総合競技で濱田さんが優秀賞を受賞しました。2人は7月25日（火）に神奈川県横浜市で行われた全国大会にも出場し、大いに健闘しました。濱田さんは「九州大会では練習の成果もあって、良い結果を残すことができました。全国大会でも多くの刺激を受け、いい経験になりました」と語りました。



長崎県吹奏楽コンクール

～ 不出場に終わった昨年度の雪辱を果たす渾身の演奏を披露！ ～

7月22日(土)、アルカスSASEBOにて第68回長崎県吹奏楽コンクールが開催され、本校吹奏楽部が2年ぶりに出場しました。昨年はコロナ禍のため、コンクール直前で出場を断念せざるを得なくなり、悔し涙にくれた吹奏楽部の生徒たちでしたが、今年は、メンバーの心が一つになったような息の合った演奏を披露し、銅賞を受賞しました。部長の崎村愛彩さん(志佐中学校出身)は「昨年のコンクールに出ることができなかった先輩方の思いも込めた演奏ができました。曲をつくる過程で得られたものも多く、何よりこのメンバーで出場できて、とても幸せでした」と語りました。



▲写真は壮行会(7/20)での演奏の様子

第1回オープンスクール

～ 「生徒が主役」のオープンスクール、中学生に大好評！ ～

7月26日(水)、第1回オープンスクールを開催し、松浦市内外から約90人の中学生、引率の先生、保護者の方々が参加しました。本校のオープンスクールは、企画・運営の大部分を生徒が行っていることが大きな特徴で、「松高レンジャー」によるクイズを交えた学校説明やまつナビ発表、中学校別座談会、部活動見学などに多くの松高生が参加し、松高の魅力をアピールしました。学校説明を担当した川原健輔さん(1年 志佐中学校出身)は「中学生が笑顔で僕たちの説明を聞いてくれて嬉しかった。中学生の皆さん、松高に入学して僕たちと一緒に頑張りましょう」と語りました。



夏季学習会

～ 夢をかなえるために夏休みも全力投球！ ～

1・2年生は7月27日(木)・28日(金)の両日、3年生は7月31日(月)から8月4日(金)までの5日間、校内にて夏季学習会を行いました。参加した生徒たちは、頑張っている仲間の姿に刺激を受けながら、連日長時間の学習に取り組み、自らの夢を実現させるため、学力の向上に務めました。中島あずささん(3年 今福中学校出身)は「家庭での学習で分からないところを探し、それを学校で先生に質問することの大切さに気づきました。こうした経験を今後につなげたいと思います」と語りました。



「伝わる言葉」

校長 舟越 裕

8月24・25日の2日間、仙台市で行われた全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会に参加しました。今年度の目玉は、仙台育英学園高等学校 須江 航 野球部監督の講演でした。須江監督の言葉には、昨年度の優勝監督インタビューで発した「青春は密」という言葉からもわかるように、聞き手の心をグッと掴む力があります。今回の講演でも数々の言葉を参加者に伝えてくれましたが、その中でも最も印象に残ったのは、「人生は敗者復活戦」という言葉です。この言葉の背景には、今の若者は失敗の場面を見ること、挫折を感じる機会がないという前提があります。確かに、スマホから得る情報は自分が知りたい情報ばかりになり、SNS上にはあこがれの「インフルエンサー」の姿や若い起業家の成功事例が溢れています。

しかし、現実は大大きく異なります。挫折の連続の可能性すらあります。そうした中で、須江監督は、「挫折との向き合い方」の必要性や、「挫折のない人生は面白くない」、だから「挑戦から人生を変えること」が必要だと説いていました。そして、まず大人が挑戦し、失敗し、そこから学ぶ姿を示すことが必要だと仰いました。失敗から学ぶことで、人間は復活できる。信念に基づく、強く伝わってくる言葉でした。



松高
YouTube



松高
ホームページ



松高
インスタグラム



松高
月間行事予定

